

平成8年度 厚生省心身障害研究 「生涯を通じた女性の健康づくりに関する研究」

「思春期の母性の認識、それを基盤にした性教育とその反応」 (分担研究:女性からみた妊娠、出産に関する研究)

分担研究報告

分担研究者 北村邦夫(日本家族計画協会クリニック)
研究協力者 丸山庸雄(丸山産婦人科医院)
共同研究者 関川光彦, 深堀 輝

要約

母性・女性・月経の各々に5つの属性を与えてそれぞれの相互依存関係を検討した。対象は地域において異なる性格をもつ3つの高校、県立の女子短期大学、20代から30代の母親クラブとした。全体として「母性」は肯定的安定的効果を持つが、月経は無条件に否定的ネガティブな傾向にある。それだけに母性の重視と共に月経の指導には明るく大切なもののとの肯定的受容的観点の指導が重要であるとの認識を得た。

こうした認識のもとに既に月経指導を終了した中学生、高校生に講演会形式で医師が「性教育」を行なった場合、生徒がいかなる反応をするか実例を呈示する。

見出し語 母性 女性 月経 性教育

研究の目的

1990年代に入り女性の非婚率が上昇してきている、厚生省の統計によれば現在は4%であるが4年制大学の卒業者に限っていえば17%を示している、将来予測によれば10%~14%の非婚率に上昇すると発表されている。晩婚化も進んでいるが、女性の晩婚化はその人個人の出生数の減少に止まらず、仮に平均20才で結婚するとすれば100年で4世代交代することになるが、30才で結婚するとなれば、100年で3世代の交代しかなく1世代が消滅することを意味することとなる、その他の要因と重なっていますの出生率の低下が我が国において懸念され人口の急速な低下とそれに至るまでの超高齢社会の維持が国民の大きな課題となってきた。

現在、出生に関わる恋愛、結婚、性交、妊娠、出産、育児の意志決定権の多くは女性に委ねられてきた、従って、性教育の目標も時代の変遷とともに変革せざるを得ない状況となってきた。女性の意識の醸成に最も大切なのは家庭における幼児期からの養育の過程が重要であることは言うまでもないが、家庭における教育力の低下は学校教育で補填せざるを得ず、取分け妊娠、出産が理解できる思春期の教育は性教育という狭い範疇のみで解決できる問題とは思えない。そこで、思春期の女性にとって自己の性、母性、月経などの認識をどのように受け止めているかを探るため高校生、PTAの女性を対象に意識調査を行ない、その調査をもとに中学生、高校生を対象に性教育講座を実施し、生徒の反応を求めた。

研究の方法

(1) 予備調査

長野市内のミッション系女子高校二年生256名

本調査は性教育講座実施後に行なわれたため、母性に対する依存度が極めて高く示された、そこで一般の高校生の意識を調査することにした。

(2) 本調査

1、調査方法

アンケート用紙を配布し、無記名で記載ののちその場で回収した。（回収率100%）

2、調査対象

高校生	都市部進学校	90名
	農村近郊高校	105名
	実業高校	213名
	高校生計	408名
県立女子短期大学生		660名
母親（30代）		105名
総計		1173名

3、調査用紙

次のアンケートに御協力をお願いします 無記名 男 女

下記のAからCのことについて、あなたの気持に一番近い項目の数字に一つだけマルの印を付けて下さい

月経

母性 肯定 やや肯定 どちらともいえない やや否定 否定
女性

研究の結果

以上について各学校毎にクロス分析を試みたが紙面の都合で詳細は割愛させて頂く、以下それより得られた結果だけを記す。

何れの集団においても偏相関係数で母性と女性には親和性があり、月経と母性の間にも親和性がみられるが、母性を除外してみると女性と月経とは対立関係にある。これは母性をキーワーズとして全体の調和が期待されることを意味するものと考えるべきであると思う。

月経が女性の特質として捉らえるのは当然としても周期性の正しい認識、母性性を考慮しての心構えなどは性教育の面でも一層配慮すべきではないかとの認識がえられた。ただし、無関心忌避的、否定的にとらえている層のあることも見逃せない。

月経一手当一大人になった一子どもが産める一女性としては当然といった大系だけでは不充分と思われる。

「母性性」を土台とするということは言葉を変えると「生きる」ことをベースにしてしっかりととした自己の性の認識をもち、男女の人間関係と人権を配慮した性教育を如何に組み立てていくかが課題であるといえる。

この場合、月経を始めから肯定的イメージで捉らえさせることが大切で、月経の仕組や手当のこと、大人になったことだけでなく、子供を産むことの機能や役割、更に大人としての責任とか、女性としてどのように生きていくか等の観点からの切込みが必要と感じられた。

以上のことより、思春期のことについての要点を敢えて取りだすとすれば、「母性性」という視点が浮びあがってくる。

このことにより性教育の基本構造、指導体系の方法などを新しい意味で再構築してみることが大切である。この中には当然、初経時の指導のありかたの改善から始り、自己の性の肯定的自認、ジェンダーアイデンティティの確立、男と女人間関係の改善ないし見直しに係わる課題、意志決定に伴う問題、人権並びに人間尊重、セクシュアリティと人格の向上、発達に係わる課題、生きる力の育成等の関連諸課題が全て包含されている。

性教育の実際

以上の認識を背景に地元、高等学校（一年生、350名、内女子145名）を対象に性教育の講話をおこなった。

演題「高校生の性と生」

いまご紹介をいただきました産婦人科の丸山でございます。みなさんの中の何人かは、うちの病院で生まれているんではないかと思います。きっと、私がお産に立ち会っていることだと思います。

産婦人科の医者というのは、ほんとうはお産のときは何もしないのがいいんですね。助産婦さん、看護婦さんがお手伝いしてくれ、出産となり、私が「おめでとう」と言って終わりになるのが一番いいお産なのです。私が医者になった昭和30年代は、まだまだ妊産婦死亡率が高くて、長野県内だけでも年間60人くらいの人が妊娠・出産で亡くなっていました。しかし、年々死亡率は下がりまして、去年は一人も死んでいません。産婦人科の医者になって、私は三十数年になりますが、この間、出産に対して何らかのお手伝いをしながら、この妊産婦の死亡率低下のためにお役に立てたのではないかと思っております。

さて、今日は、みなさん一年生ということですので、少し生物学的な勉強の内容を加えながらお話しをしてまいりたいと思います。最初に、「生命とはなんだろうか」ということについて考えてみましょう。

☆「生命」は科学でつくり出せない

人間というのは生物学的に分解すると、いろいろな臓器でできていますね。鼻だとか手だとか、足だとか、腸だとか、胃だとか、そうした臓器が組合わさって身体ができています。その臓器は何でつくられているかというと、細胞でできているわけですね。2兆ぐらいの細胞でできていると言われています。その細胞をさらに詳しく見てみると、細胞膜で囲まれ、その中にいろいろな液体などが入っています。一番大事なのは、その真ん中にある核です。この核のなかに、いろいろな生命現象のもとが隠されています。

私たちが長野高校（講演している学校）で勉強したころは、細胞が分裂するときに核の中に染色体というのがあらわれ、これがまず二つに分裂し、やがて核が分裂し、二つの細胞になっていくと学びました。ここまでしか勉強しませんでした。ここまで知っていれば大学受験も大丈夫でした。

しかし、君たちは気の毒なことに、この先まで勉強しなければならないんですね。それをお話ししましょう。

染色体という棒みたいなもの、これは顕微鏡で見えます。私たちの時代の生物学は顕微鏡で見える範囲でおしまいでしたが、最近はさらに電子顕微鏡であるとか、いろいろな分析の方法とかによって、この染色体のなかに二重螺旋状に糸屑のようなものがあることが分かってきました。これが遺伝子なんです。コンピュータによって、この遺伝子の解析がとても進んでいます。みなさん方も新聞でお読みになったことがあると思いますが、遺伝子治療とかの研究が進んでいます。この分野では、日本が世界で一番進んでいるんです。というのは、この研究は生物学だけではだめで、コンピュータ技術であるとかのエレクトロニクスの技能によって、遺伝子の研究は進む訳なんです。日本はこの両方とも進んでおりまますので、世界のトップレベルにあるわけです。

遺伝子はアミノ酸というものでできています。アミノ酸をさらに分解しますと、NとかOとかHとかPとかといった原子・分子になるわけです。アミノ酸というのは有機物です。今までの学問は、このように、人間の身体を分解して詳しく見てきました。

ところが、これを逆にして、有機物を組み合わせて遺伝子をつくろうとしても、実はできないんです。どんなにうまく組み合わせても、遺伝子を合成することはできない。これが「生命」というものなんです。命という「生命現象」があるわけです。

いまの科学というのは、医学に限らず、このように左から右へ（図1）とやってきました。みんなの世代になると、逆に右から左へといけるんではないかと思います。みなさんの中で将来、

遺伝子工学あるいは生物学を研究する諸君がいて、もし右から左へといけたら、その成果はもうノーベル賞なんてもんじやないです。ぜひ、だれか一人ぐらい、そのような研究をする人がみなさんの中から出でくれたら嬉しいですね。

いずれにしても、今日の科学では、遺伝子を分解してアミノ酸になることはわかっていても、アミノ酸を合成して遺伝子をつくることはできない。単なる有機物であるアミノ酸が組み合わさって、どうして生命現象をもつ遺伝子ができるのか。それがわからない。ここに命の一番の基本がある。

むかしは、ここを説明するのに神様が出てきました。神様が、もにやもにやとやったらできちゃったということでした。最近は、神様というわけにもいきませんので、強烈な圧力か電圧か、あるいは原子力か何らかのエネルギーが加わって生命現象が生まれたのではないかと考えるわけです。

☆たった一つの遺伝子の中に一生の情報

遺伝子は実に不思議です。受精卵は、牡または男性の精子が雌または女性の卵子の合体によってできるわけです。これはたった一つの細胞です。そして一組の遺伝子をもっています。たった一つだけの細胞であり、たった一組だけの遺伝子をもっています。

このなかに、その人の一生を支配する情報がすべて入っているのです。男であったり女であったりすることだけでなく、背が大きかったり小さかったり、体重が多かったり少なかったりというのも、みんなこの遺伝子が決めているわけです。

受精卵の遺伝子を解析すると、核のなかの $2n + x$ または $x y$ という一組の染色体に、その人の一生のプログラムが入っているわけです。みなさんがお使いになっている電子機器のなかにはチップスという小さな部品があって、その中にいろいろな情報が入っているのと同じことです。チップスはまだ大きくて顕微鏡でも見えますが、みなさん方の身体の基本になっている小さな細胞たった一つのなかに含まれている遺伝子は顕微鏡では見えないくらい小さなですが、このなかに一生のことが入っているのですから不思議ですね。

簡単に説明すると、妊娠して二、三ヶ月のころにおなかのなかの赤ちゃんの細胞を一つ取り出し、その中の遺伝子を解析すると将来、身長は何センチで体重何キログラム、何歳のときに何の病気で死ぬということまで分かるのです。そこまでいまの遺伝子工学は進んでいます。一番有名なのは糖尿病になる遺伝子です。ですから、生まれる前にその遺伝子を取り除いてやればいいわけです。そうすれば、糖尿病にはならない。こんなこともできるわけですね。理屈の上でのことです。

こうした治療はすでに一部始められており、それは遺伝子治療と言われるものです。信州大学でも、ある特殊な病気について今年から治療を始めています。

つぎに「生命は、いつ発生したのか」という問題があります。受精した瞬間なのか、生まれた瞬間か、人工妊娠中絶などとも関連して論争になっています。

遺伝子というのは無限に分裂して増えようとする力があります。ですから、みなさんの遺伝子というのも、逆上っていくと、みなさん全員がどこかどこかで繋がるわけです。どんどん逆上つていけば、すぐ隣に生えている木も、あるいは親戚かも知れません。最初にアミノ酸から遺伝子ができあがった、その瞬間から生命は始まっているわけです。

このような生命ということ、遺伝子ということをまず頭に入れておいていただき、次に脳の仕組みについてお話しします。

☆性欲は、「生命をつなぐ」ための間脳のはたらき

人間の脳ミソというのは、横に切ると図2のような形をしています。ちょうど真ん中あたりに間脳という部分があります。そのちょっと下に脳下垂体があります。これをまとめて間脳下垂体系といいます。視床下部とも言いますが、ここが人間の生命の一番基本的なことを司ります。

人間が行動する原因になるものとして、三つの欲望があります。それが、この間脳下垂体系から発するわけです。主として間脳は自律神経、下垂体は内分泌の中核です。

三つの欲望について考えてみましょう。

まず一つ目は、食欲です。これは体温を維持しようとする欲望です。言い換えると、生命を維持するための欲望なのです。

もし食欲がなくなったら、人間は死んでしまいます。カロリーが不足すれば生きていけませんね。カロリーが与えられたとしても、体温を調整するためは水分が必要です、栄養素もとらなければなりません。さらに体温を調節するためには、洋服を着たり、家を建てたりすることも、必要ですね。

二つ目は性欲です。みなさまの将来は、これからどうなるか、よくわからないですね。大学を受験しようとしている。しかし、ほんとうはどうなるか分かりません。将来について確実に分かっていることは、一つだけあります。それは死ぬということです。

人間は最高でどのくらい生きられるだろうかという研究もされていますが、だいたい100歳ぐらいしか生きられません。人間の脳ミソは、およそ130億個の細胞でできています。「おぎやあ」と生まれたときから130億個です。

みなさま方はまだ15歳ぐらいですから脳の細胞に異常はありませんが、二十歳を過ぎると一日10万個ずつ、この脳細胞は減っていきます。私のように60歳を過ぎますと、40年間も減ってきてしますので、だいぶ少なくなっています。お酒を飲むとさらに減ります。だいたい一日に20万個ぐらい減ってしまいます。私はお酒が大好きですから、かなり減っているでしょうね。

このようなことをもとに単純計算しますと、130億個の人間の脳細胞が完全になくなるのに250年かかるんです。脳の細胞は一度壊れると、絶対に戻りません。手などはケガをしても新しい細胞ができて皮膚は再生してきますが、脳の細胞というのは一度壊れてしまうとなくなってしまうのです。ですから、半分くらい壊れるまでしか生きられないだろうというように考えますと、125年で人間は死んでしまうことになる。日本の記録でも、125歳以上という長寿の記録の人はありません。

ということになりますと、110年後には、ここにいる人たちみなさんは全員死んでしまうということです。みなさまの将来はどうなっていくのか分からぬが、110年後に全員死んでいるだけは確かなことです。

しかし、みなさんはそれぞれ遺伝子をもっています。それと同じ遺伝子をもった新しい生命をつくることによって、未来につながっていくことができます。つまり、性欲によって新しい生命を誕生させることができるわけです。性欲のお陰で、個々の人間は死ぬが自分の遺伝子を次の子どもに残していく、同じ遺伝子をもった生命体を自分の生命の延長として残していくということです。

みなさまのお父さん、お母さんが、みなさんに何をつないだかというと、同じ遺伝子をもった生命を受け継がせたのです。父親の遺伝子の半分と母親の半分との組み合わせによってできたのが、あなた方の生命なのです。新しい命を誕生させるということは、自分と同じ遺伝子をもった生命が育つということです。わかりますよね。

人間は、男と女に分かれています。男は子供を妊娠することはできません。ですから男というのは、女性の身体を通してはじめて自分の命をつなぐことができるのです。このようにみてみると、性欲というのは「やがて死んでしまう自分の生命の延長を、新しい遺伝子につなぐことによって自分の命が伸びていく」というものなんですね。

男性が女性に興味をもつ、女性が男性に興味をもつということは、自分の生命をいかにして延ばすかということなんですね。自分は必ず死ぬが、新しい遺伝子につなぐことによって生命の延長がはかれる。そうした大切な意味合いをもっているわけです。

最初に生命の基本が遺伝子であるとのお話しをしましたが、生命の最小単位を次の子供に譲ることであり、自分の生命というのはずっとつながってきていることが認識できたでしょうか。

☆長野高校へ入学した動機と三つの欲望の関係

みなさん方は、なぜ長野高校へ入学してきたのか。なぜこの学校を選んだのか。それは、まず食欲を満たすためですね。

私たちは、いい学校に入って、いい職業について、いい収入が得られればと考えます。むかし衣食住は自分の身体ですべてを生み出しましたが、いまはお金というものが仲介しており、生きていくためには経済力が必要という時代です。それによって食欲が満足させられるわけですね。

次に、何のために一生懸命勉強しているかというと、いいお嫁さんがほしい、またはいいご主人を選びたいという気持ちがあります。それには、相手に自分が選ばれなければいけません。男性であればスポーツができるとか、特殊な能力が発揮できるとか、女性であれば美しいということも大きな要素です。知的な能力が高いとかもそうですね。そういうもので、性欲を満足させる相手を探すわけです。相手に気に入られようとするわけですね。

人間というのは、孤独に弱いものです。他の動物と比べても孤独に弱い。人間は、必ず社会生活を行ないます。その集団の中で、認められたいという欲望があります。それが三つ目の欲望名誉心です。

試験でなぜいい成績を得たいかというと、同じ勉強したのならいい成績を得て先生に認められたい、クラスの尊敬を得たいという気持ちです。

人間というのは、以上の三つの要素で行動するわけです。また、これらの欲望によって犯罪も起きてきます。

かつて、日本がまだ貧しかったころは、食欲を満たすための犯罪でした。いまは食欲は満たされてきたので、性欲か名譽欲による犯罪が多くなってきています。

この三つの欲望の基本が、間脳下垂体系から発するものであることを覚えておいてください。

☆失ってはならないものをたくさん見つけ「自立」しよう

それでは、もう一度、脳の図を見てみましょう。

人間が他の動物と違うのは、間脳下垂体系の上に、大きな大脳というものがあることです。これは他の動物ではそんなに発達していません。蛇などは、ほとんどありません。間脳下垂体系だけで動くわけです。

人間の刺激というのは、大脳を通して間脳下垂体系に入ります。そして間脳下垂体系から発する欲望は、大脳を通して外へ出るわけです。大脳は、経験と学習とによって鍛えられます。先ほども言いましたように、大脳の細胞の数は生まれたときから全然変わりません。

脳を解剖的に顕微鏡で見ますと、表面に脳の細胞が並んでいます。その下に神経繊維がたくさん出ています。勉強や経験を積みますと、この中にたくさんの側線が出てきます。これはいったんできると、なかなか消えません。ですからたくさん勉強したり経験の豊富な人は、この繊維がたくさん増えているということになります。そして、ある刺激を受けて動物的な欲望がはたらくとき、この大脳のたくさんの細胞と繊維が、それをコントロールするはたらきをします。

みなさん方は中学校を卒業したばかりですが、それまでの時期を、私たち仲間の間では「思春期前期」と呼んでいます。そして高等学校を「思春期後期」といっています。

思春期の前期で何ができるかというと、生物学的な成熟はほとんど終わります。男性の場合は少し遅れますけれどね。人間が思春期前期を終えるということは、生物学的には一人前になるということです。これを「自立」と言います。

高校を終わるころには、大脳でコントロールすることを身につけます。これを「セルフコントロール」と言います。

「自立」というのは、先ほどの間脳下垂体系が完成することであり、間脳下垂体系が完成すれば、生物学的には妊娠もしますし、妊娠させることもできます。しかし、社会的に適応する能力である大脳の発達により自分の行動をセルフコントロールできるようになって初めて「自律」で

きる、社会人として一人前になるわけです。ですから、高校を卒業するということは、単に卒業証書をもらうということではありません。みなさんが、これから三年間で学ぶことは何か。体験し、チャレンジし、失敗したり挫折したりしながら、自分の気持ちをコントロールできるようになります。それによって「自律」するのです。もし、三つの欲望をそのままストレートに出すとしたら、それこそたいへんなことになります。

美しい女性がいたからといって飛びついたら、どうなるでしょう。それをしないのは、大脑が抑制するからなのです。私の場合で言えば、60年の体験の中から、自分には妻があり子供もあり、そして大事な家庭がある。それを壊すような行動はしない。あるいは医師としての社会的な地位がある。長野高校の卒業生としての、同窓生としてのプライドがある。それがあるから、行動をコントロールできる。もしこれがなくなったら、たいへんなことです。

お年寄りで大脑のはたらきがダメになり、間脳下垂体系のままに行動するというケースもあります。大脑のはたらきがちゃんとしていないと、とんでもない行動を起こしてしまうのです。

「自律」するために一番大事なことは、失ってはならないことをたくさん身につけることだと思います。

長野高校に入ったというのは、みなさんにとて一つの誇りだと思います。私も同窓生として長野高校で学んだことを誇りに思っています。それも失ってはならないものの一つであります。私は、その後、信州大学の医学部へ行きました。そこで勉強をしたというのも、私の一つの誇りであります。それを失ってはならないものです。それが、いま言いましたように、若い女性に飛びつかないというコントロールの要素になるわけですね。みなさんにも、この学校で学んだということを一生の誇りにしてほしいわけです。

勉強でも、スポーツでもクラブ活動でもいいです。がんばってほしい。高校野球で母校の長野高校が試合に出るなどというと、私は新聞をみたりテレビを見たりして応援します。そうした失ってはならないものをたくさん身につけることが大事なんですね。

☆セックスの語源は分けること

セックスという言葉は、もともと分けるという意味です。何を分けるか。ギリシャの人たちは図3のように考えました。これをアンドロギュノスと言います。適當な日本訳がなくて「男女」としていますが、このようなものをギリシャの人たちは考えました。

このアンドロギュノスは、神様に似せて男と女と一緒にしたものを作りました。これが増えて、しかも頭がいいものですから、神様の国がやられそうになってしまう。あわてて神様がこれを半分に切るんですね。これをセックスと言ったんです。

ギリシャ語でゼックスと言います。英語でもセクションというのは分けるという意味ですよね。ドイツ語のゼクチヨンというのも同じ語源で、切るということです。思春期になると、半分に切られた残りのベターハーフを探し出す。この探し出す行動が恋ということです。

ちょっと余分な話になりますが、セックスというのは日本語では「性」と書きます。「心」と「生きる」が一緒になっています。先ほど、性欲は自分がやがて死んでしまうが自分の遺伝子をもった生命物質を身体のなかから生み出すことによって自分の生命を延長させることで死んでいくという話をしましたが、まさに生きていく心というのがセックスなんですね。

「恋」という字を見ると、心が下についている。「惚れる」という字も下に心がついている。ですから、恋だの惚れたのというのは、「下心」の付き合いということです。というのは、まあ冗談ですが……。

ようやく「愛」という言葉になって、心が真ん中に入ってくる。昔の漢字を作った人は頭がよかったです。

さて、人間はこのようにして男性と女性とに分かれます。これを有性生殖と言います。なぜ高等動物になればなるほど有性生殖を行なうか。下等なアーマーであるとか、ゾウリムシは分裂生殖です。

ふつう動物はほっておくとほとんどがメスになります。一部がオスになります。ミツバチやアリもそうです。はたらきバチやはたらきアリはほとんどメスです。オスはちょっとだけいればいいんですね。

☆性交は有性生殖のために行なわれる

なぜ有性生殖が行なわれるのか。遺伝子というのは、生まれたときの遺伝子と80、90歳の遺伝子とでは違っています。生きている間にどんどん変わっていくのです。

たとえば免疫という情報が遺伝子に入っています。みなさんは、麻疹を一度やってしまえばもう一生罹らないですよね。こうした力を免疫と言いますが、この情報が遺伝子の中に組み込まれるわけです。このような免疫情報をはじめとしていろいろな情報が遺伝子の中に取り込まれていきます。

そうすると、人間というのはどんどん変わってしまうことになる。ところが有性生殖という方法をとりますと、女性の卵巢のなかに将来卵子になる卵原細胞がありますが、この細胞はおなかのなかにいるとき、つまり胎児期が一番多いのです。生まれる前の妊娠8カ月ぐらいのときは、約370万個の卵原細胞があります。ところが生まれるころになるとどんどん減りまして、20万個から35万個ぐらいになります。女性は成熟して毎月1回だけ排卵するようになるわけですが、卵原細胞は胎児期にでき上がってしまっているわけなんですね。ですから、これには免疫情報を入ってきません。原型のまま卵子細胞となります。そんな仕組みになっています。

しかし、男性の精子のほうは変わります。精子というのは精巣のなかでつくられます。15歳ぐらいのみなさんの年齢の頃が一生で一番たくさん精子をつくります。女性は二十数万個の卵原細胞を卵巢のなかに蓄えたままでですが、男性の場合は高校生ぐらいのときは一秒間に3000個ぐらいの精子を作ります。分裂が激しいわけです。ですから精巣は一種の化学工場とでも言えます。

よく精子がたまつたからセックスしたくなると言われますが、これは間違いで、関係ありません。セックスの欲望は男性ホルモンの問題です。

女性の場合、いま申し上げましたように、免疫情報を組み入れられませんが、知つておいてほしいことは、酒とかたばこは影響力が強く出ることです。卵子が傷むのです。遺伝子情報は加わらないが、外からの毒物が重ねられることによって卵子が損傷を受け、奇形児であるとか精神薄弱であるとかいう障害児が生まれやすくなります。

これは男性も影響はされます、それほどでもない。こうした違いは卵子の作られ方と精子の作られ方に違いからくるものです。女性で38歳以上の出産では、染色体異常のダウン症候群の子が生まれやすいというのは、卵巢が25歳を超すと老化してくるからなのです。

有性生殖の話にもどりますが、そもそも生命は海のなかでできた。ですから、海の中にいる動物というのは、体外受精です。海という母体があり、その中に卵を産み出します。そしてオスが精子をぶつける。それでいいわけです。

ところが陸上の動物は、そのようなわけにいかない。海と同じような状態がないと卵子と精子とが合体しないのです。そこで性交が行なわれます。男性と女性で精子と卵子を交わらせるために、性交という行為が行なわれます。

性交というのは、男性の勃起したペニスを女性のワギナに挿入して射精することをいうわけです。ですから、男性のペニスが勃起しなければ性交は成り立ちません。女性の場合は膣に挿入されるだけであり、自分から行動を起こすということは少ないわけです。

性犯罪を考えてみると、9割9分が男性側が性的な欲望を感じてペニスを勃起させて、性交を求めるわけです。女性の意思に反して、暴力的あるいは精神的な圧力によって女性の行動を封じながら性交を行なうことを強姦といいます。最近は高校生の強姦事件が増えています。これは当然男性側に原因があります。性的な犯罪は強姦に限らず、たとえば下着泥棒あるとか、覗きであるとか、あるいは女性の後ろにくつついて歩くとか、汚いものをかけて喜ぶとか、スカートを切ってしまうとかいうものもそうです。

このごろは女性もおかしなことをやります。逆セクハラというのがあり、女性が主導権を握り、自分の性的な魅力で男性に犯罪を犯させるものです。「あそこのデパートの指輪を取ってきてくれれば、今晚セックスさせてやる」とかいうように、性を介在させて男性に犯罪を起こさせるケースも出てきています。

☆性犯罪に巻き込まれたときは直ぐ連絡を

ついでですので、最近起きている中学生・高校生の性犯罪の内容をみてみましょう。

いまも話したように、女性のほうが性交を条件にして男性を使うケースが増えてきています。それと、女性が女性を誘う強姦事件が多くなっています。自動車の中にまず男女のカップルがいます。そして、その女性が他の女の子をドライブに行かないかと誘います。で、誘われた女の子が車に乗ると両側に男が待っているわけです。最初のカップル二人はどこかへ行ってしまい、乗り込んだ女の子が二人の男にやられてしまうというケースが増えてています。お祭りだとか、お酒が入ったりしますと、このような事件が起きています。私は警察関係の仕事もしていますが、長野市内でもこうしたケースが出ています。ですから、女の子に誘われたのだから安心だということにはならないということです。

もう一つ重要なことは、性的犯罪を犯すような男は必ず繰り返すということです。先日ベルギーで起こった事件やイギリスで起きた幼児の大量殺人事件もそうですが、性犯罪は繰り返すということです。ですから、もし不幸にも性犯罪に巻き込まれたら、なるべく早く私のところへ来てください。必ず相手の男性を処罰します。日本の法律は、その点で性犯罪に対して罰則が甘いんですが、女性の側も届け出るのが二日とか三日とか経ってからのために、相手を有罪にすることが難しくなります。不幸にも犯罪に巻き込まれたときは、直ちに来てください。

先日も、長野市の周辺のある高校で事件が起きました。その人は学校へ行く途中で襲われたんですが、学校へ飛び込んで直ぐ養護の先生と一緒に私の所へ来たんです。この事件では相手を捕まえまして有罪にすることができ、犯人はいま須坂の刑務所に入っています。繰り返して言いますが、なるべく早く私の所へ来てください。必ず相手を見つけて有罪にします。性的犯罪は最初にピシッとやっておかないと繰り返すため、女性の被害を大きくしてしまうのです。

☆お産後のお母さんの顔はすばらしく美しい

それでは少し気分を変えて、スライドを見ることにしましょう。

今朝も私の病院で赤ちゃんが生まれました。いいですね。産婦人科の医者になって、こんなにいいことはありません。内科や外科の医者は死亡診断書を書くことも仕事ですが、産婦人科の医者はそんなことはなく、出産届けを書くだけです。

赤ちゃんは生まれてきたときは裸です。しかも、人間の赤ちゃんはとても未熟です。馬の赤ちゃんなど草食動物は、生まれてすぐに立ち上がって逃げる力がないと他の動物に食べられてしまいます。人間の赤ちゃんはまったく無能です。母親に洋服を着せてもらわなければなりません。この写真の赤ちゃんを抱くお母さんの手を見てください。このお母さんにとって初めての赤ちゃんですが、指先に力を入れて一生懸命抱いているでしょう。お母さんにとって、こんなにも大事なんですね。

初めて産んだ赤ちゃんにお乳をあげるお母さんの顔というのは、世界一です。会場のみなさんの中にも美しい女性とそれなりと人がいますが（爆笑）、私も男ですから、美しい女性を見るのはとても嬉しいんです。私が産婦人科の医者になってよかったですと思うのは、毎日この美しい女性の笑顔に会えるということなんですね。

たしかにお産というのは、たいへんなことです。十力月もおなかの中にいて、それからようやく生まれるのですが、赤ちゃんがお乳を吸っているときの安心し切った顔はすばらしいですね。そして、この母親と子供を安心させ、ゆっくりさせている陰には、彼女の主人がいるんですね。

この写真には写っていませんが、その父親がいて、この写真のようなすばらしい光景になるわけです。

☆生殖器についての知識も正確に覚えよう

次は脳の写真です。脳ミソには生きるための部分、成績やうまく生きていくことに関係のある部分があることは、先ほど話しましたのでわかりますね。人間は、成績がいいばかりが社会に評価される要素ではありません。

同級会をやってみると、けっして長野高校のどん尻が惨めな生活をしているかというとそうではないし、トップで出た者が裕福な幸せな生活をしているかというと、そうでもない。

次は男の子と、女の子の写真です。このぐらいの頃は、男と女は生殖器だけが違うんですね。やがて男性の場合、精巣から男性ホルモンが出るようになると毛が生えてきます。髭が生えたり、筋肉質で肩幅も広くなります。そして女性は柔らかい体つきになっていきますね。

これは生殖器の写真です。中学のときにもやったと思いますが、正確に覚えておいてください。精巣でつくられた精子は副睾丸に溜められて、副睾丸で分解されます。精液は前立腺でつくられます。このペニスは普段はふにやっとひん曲がっていますが、充血によって立ってきます。これを勃起と言いますね。勃起して精液が出るのが射精です。

勃起する原因には三つあります。一つはエロチックな想像をし、または美しい女性を前にして性的な行動をするようなときです。二つ目はペニスの先の部分を反復刺激することで射精します。これをマスターベーションと言いますね。中学・高校生の99パーセントはマスターベーションをします。よくマスターベーションをすると勉強が手につかないと言われますが、そんなバカなことはありません。「できるなら朝までやろう。マスターベーション」と言うぐらいで何も心配ありません。(爆笑)

三つ目は、朝おしっこが溜まったときで、このときも勃起しますね。モーニングエレクションと言います。朝立ちですね。

次は女性の生殖器です。この部分を外陰部と言います。この言葉を、女性は意外と知らないんです。産婦人科へ来て「どうしました」と聞くと、あの辺がもよもよという感じで、はつきりと「外陰部が痛い」とか「外陰部が痒い」とか話してくれるといいですね。

外陰部と子宮をつなぐのが膣です。ワギナと言います。この子宮で妊娠するわけです。その両側に卵管というのがあり、卵巣があります。女性の場合、男性と違って外陰部から膣、子宮、卵管を通っておなかの中まで繋がっています。ですから、外陰部にばい菌がたくさん繁殖するとおなかの中まで入っていって腹膜炎を起こすこともあります。

このグラフで見ると、15才ぐらいですと男性の80パーセントぐらい、女性だと20パーセントぐらいが、性的な興奮をします。男の子は女の子に触りたくなります。油断も隙もあったもんじゃない。女の子に聞くと「好きな男の子に触りたい」と言いますが、男の子の場合は「女なら誰でもいい」という(爆笑)面があります。

☆女性はその人の愛を受け入れられるか判断して行動を

まとめて言いますと、男の子は15才だと、男性は射精、性の関心、異性への接触欲、マスターベーションがある。女子も生物学的に成熟して、性交すると妊娠するわけです。これは女性によく覚えておいてもらいたい言葉ですが、「ちょっと待て。その一発で母になる」です。これは男と女との大きな違いです。性交したとき、男性は射精しておしまいです。ところが、女性はそこから妊娠が始まる。これが男と女との大きな違いなのです。

この写真は、妊娠5ヶ月くらいの赤ちゃんの写真です。目は見えませんが音は聞こえます。ですから妊娠しておなかが大きくなり始めたらいいい音楽を聴かせてあげるといいですね。いっぱいお話しをしてあげると、日本語をたくさん覚えます。英語で話してあげると英語を覚えます。

これは生まれたばかりの赤ちゃんです。真っ赤でしょう。5分か10分すると、この色はなくな

ってしまうのです。白くなる。みなさんのお姉さんや親戚の人が赤ちゃんを産んだからといって病院へ来てみても、こんなきれいな色はしていませんね。もうちょっと白っぽいです。こんなにきれいなピンク色をしているのは、生まれてから5分くらいの間だけなんですね。元気に泣きますよ。この泣き声がすごい。

今朝の4時ごろも生まれましたが、「おぎあ」って泣くと、うちの病院はあまり大きないので病院中に響くんですね。朝、各部屋を回ると、「先生、昨夜生まれましたね」と言われます。こんな大きな赤ちゃんが、おなかの中で育って出てくるんですね。

中絶すると、いろいろなことが起きます。とくに心身症ですね。生命を亡くしたという、男性にはない女性特有のいろいろな症状が起きます。このことは、男性諸君もよく覚えておいてください。

長野はオリンピックが近づいてきて、国際社会と言われていますが、女性がセックスを強要された場合にどんな反応を示すかというと、強要されても断るというのはフランスが一番高いんです。日本は低い。逆に何となく受け入れていまうというのは、日本が一番高い。「しめた」なんて、男性諸君は思ってはいけないんですよ。日本の女性も、自分の意思をはっきりさせて、自分がその人の愛を受け入れられるのかよく判断して行動してほしいと思います。

☆正しい避妊法でないと危険

みなさん方はお父さん、お母さんに望まれて生まれ、育ったきた。まだこれからの何年間かはお父さん、お母さんの世話にならなければなりません。いまはおしめを代えるなんてことはありませんが、洗濯を頼む人もいるでしょうし、お金をもらう人もいる。ご飯をつくってもらう。いろいろ世話になる。

それがどうしてできるかというと、子供というのは、親にとって自分と同じ遺伝子を持った生命体だからですね。ですから、何でも与えることができる。財産もみんなくれてやることができます。

避妊法ですが、男性側が使うのはコンドームです。最近は女性用のコンドームというのもできています。それから男性のパイプカット。これは簡単にできます。5分ぐらいあればできてしまします。これにより100パーセント妊娠しなくなります。

女性のほうはいろいろありますが、一番確実なのはピルです。しかし、二十歳前はピルは使わないほうがいい。副作用が強く、太ってしまいます。そのほかにも、このようにいろいろな方法がありますが、それぞれ確実とは言えません。

基礎体温表というのは、排卵の日にはセックスをしないという方法です。よく失敗するのは、膣外射精です。セックスをしていながら射精の瞬間にペニスを抜けばよいというのですが、これはだめです。射精する前に精液が出てきていることがあります、そこに精子が混じっています。われわれの所にくる若い人のケースで失敗しているのは、ほとんどがこれですね。コンドームをきちんと使えばいいんですが、ほかはだめです。

コンドームを使うとき、先のほうの精液を溜めるところの空気を抜くことが大切です。失敗するのは、抜くときです。射精するまではペニスは勃起しているので固いのですが、射精が終わるとぐにやぐにやになつて、透き間だらけになる。膣の中に忘れてきてしまうことがあります。すると精液が漏れて妊娠してしまうことがあります。

基礎体温表というのがあり、これは荻野式とも言いますが、これは失敗することが多いので覚えないほうがいいでしょう。

☆エイズは免疫力が低下する性感染症

問題になっているのは、性感染症です。STDと言います。この中には性病というのがあります。

淋病、梅毒、軟性不育など、これらの原因は細菌ですので、ほとんど抗生物質で治ります。しか

し、抗生物質で治らないものが最近増えてきている。その一つがエイズです。エイズのほかにも性行動によってうつる病気として、肝炎があります。B型、C型肝炎。それからヘルペスですね。クラミジアも最近増えています。女性では虫垂炎や胆囊炎とよく間違えられます。男性の場合、症状は出ないんですが、女性の場合には非常に激しい症状が出ます。ヘルペスもウィルス性ですが、このようなものが増えてきています。これらは抗生物質では治りません。肝炎なども、感染しますとアウトですね。

エイズはみなさんもよく知っているように、後天性免疫不全症候群の略なんですが、いまはウイルスが確定しており、HIVというものです。ですから最近はエイズと言わないでHIV感染症と呼ばれています。ウイルスがわからないうちはエイズだったんですが、確定したからです。

HIVだけでなく、肝炎も同じです。このような場所にいるわけですね。いまはなくなりましたが、血液感染というものもあったわけです。エイズの患者に歯槽膿漏かなにかがあって血が出ていて、その人とキスなどをするとうつります。唇だけでチュチュとやっているならいいんですが、舌を口のなかに入れるフレンチキッスとかディープキッスだと、うつりますね。

母子感染というのは日本ではまだ二、三例しか報告されていません。長野県のエイズの感染者数は、昨日の報道だと129名です。そのうち発症者は十数名。外国人が105名で、日本人は8名ぐらいです。しかし、日本人の中にもじわじわと増えてきています。この数字は検査でわかったものであり、検査していないくて感染している者もだいぶいると考えられます。いわゆる潜在的な感染者ですね。血液中に抗体ができて症状が出ていないが他の人に感染させるような状態です。

発病しますと、最初は日和見感染という状態で、風邪をひいたり下痢したりの状態が続きます。そしてだいに痩せていきます。いま川村竜平君がテレビに出ていますが、いつ痩せてくるか。心配です。最近はそうは言っても、いい治療法が出てきています。ですから、感染しても発病しないというケースも増えています。もちろん、きちんと治療した場合のことです。

この写真はエイズの末期です。体中に白いカビがはえてきます。免疫力がなくなるということは、ばい菌にたいする抵抗力が弱ってくるということです。ですから結核になったり、肺炎になったりするんですが、その症状はとりあえず抗生物質で治ります。しかし抗生物質をたくさん使い続けますとこのように、カビがはえてくる。真菌症となる。

これが肺の中にまで入っていきます。それが広がっていくと窒息してしまう。このような死に方をするのです。

これは癌です。免疫力というのは、ばい菌だけでなく癌に対する抵抗力も免疫力なのです。みなさん方も、焼き魚を食べたり日光浴をしたりしますと癌細胞が身体できているのですが、体の中に免疫力というそれをやっつける力があります。癌の細胞というのは体にとって異物ですから、これを排除する能力である免疫力がある間は癌になりません。ですから、エイズになりますと免疫力がなくなってしまうため、ちょっとしたことで癌になってしまふんですね。この写真は、脳に転移したところです。

エイズは日常生活では感染しません。むしろB型肝炎とか、C型肝炎とかのビールス性疾患のほうが怖いです。エイズの特徴は伝染病であること、とくに性交によってうつる可能性が高いということです。

最近はオーラルセックスといって、口でやるセックスによる感染が増えてています。男性の生殖器を女性が口でくわえるとか、女性の生殖器を男性がなめる行為で、STDの気炎菌の喉頭炎や咽頭炎が増えています。

エイズは発症までの期間が長いのが特徴です。そのため症状が出なくても感染させてしまうわけです。

☆セックスにはお互いの平等の関係が大切

もう一つ大事なことは、自分の意思で感染から自分を守ることができます。先ほどコンドームの話をしましたが、これは性行為感染症を予防するいい予防手段でもあります。

しかし、男性と女性の間で性交を行なう直前に合意が必要となります。男性と女性の間に意識の差があった場合は使われません。

例えば女性の側がまだ妊娠したくないので「コンドームを使ってよ」といっても、男性のほうが「生のほうがいい」と女性に押し付けようすると、もうだめです。お互いが平等の関係でないと使われません。自分の意思で自分を守ることはできるんですが、男性と女性とが対等の立場でセックスを行なうべきであり、もしここでセックスをしないと捨てられてしまうなどという従属関係なっているときは危険だということです。

コンドームを使うということは、相手に納得させること、お互いが合意できる、そして男女が平等の関係でなければならないということです。

☆家族は夫婦を中心とした社会の一番小さな単位

お父さんとお母さんの二人の家族があつて新しい生命が生まれる。新しい生命が生まれることで、男性も女性も働く意欲を持つ。人間の働く意欲の基本は、食欲と性欲と名誉心だということを、今日はお話ししてきましたが、その三つがなくても働く意欲が出てくるのは子供なのです。これは、もう少しみなさんが大きくなるとわかると思います。女性にとって一番すばらしい原動力というのは、妊娠・出産できるということです。それをいつ発揮できるかです。

人間が行動する基本である食欲と性欲と名誉心の三つを、一番小さな単位として満足させられるのが家庭です。家族です。その基本が夫婦なのです。夫婦というのは、男性と女性というまったく違った生物によって成り立っています。男性は女性というものがよくわからないし、女性は男性というものがよくわからない。私も結婚して30年になりますが、いまだに嫁さんのことはよくわかりません。それでも一緒にいます。わからないから一緒にいられるんです。まるっきり同じではありません。

私には子供が産めない。彼女が子供を産んでくれる。そして彼女がその子供を育ててくれる。その間、私は一生懸命に医者として働く。そして経済的に補っていく。夫婦二人の協力ですね。

出産というのは女性でなければできませんが、育児は男性でもできます。最近の育児休暇法は、男性でも育児休暇が取れるようになりました。家族は夫婦を中心とした社会人として一番小さい単位であるが、最もすばらしい単位です。お互いに男性は女性に、女性は男性に愛され愛することによってはじめて夫婦となるわけです。

☆自分を向上させ人を大事にしてよき相手を見つけよう

高校の時期は思春期だと先ほど申し上げましたが、高校を卒業して結婚するまでは青春期です。高校を卒業するということは、人間として、社会人として最低の条件を満たすわけですが、いまの社会はより高度な社会になっています。そこに適応し、その中でお互いに尊敬し合える異性を求める。

みなさんの隣の人を見てください。もしかしたら未来の奥さんであり、未来の旦那さんかも知れません。(爆笑) ぜひ選ばれるように、お互いにがんばってください。

私の娘も、来年、長野高校のときの同級生同士で結婚します。どうしてそのような関係になつたのか知りませんが……。在学中はお互いに目にも入らなかつたのに、27歳になってから長野高校の同学年であったことがわかり、急に接近したようです。

どうか、みなさん、人を愛するだけでなく、人からも愛される人間になり、すばらしい夫婦の関係をつくり、お互いに助け合いながら、知的にも向上していくようにしてもらいたいと思います。

そのためには、これから高校の3年間、あるいはその後の大学生・社会人になってからも自分を磨き、相手に認められるようになってほしい。そして結婚式のときには、ぜひお世話をなつたここにおいでの方を招待して、こんなすばらしい相手を見つけましたと報告してください。

みなさん方の持っているこのすばらしいこの雰囲気を、一生持ち続けてほしい。長野高校で学

んだということは、思春期に学んだことであり、勉強だけでなく、クラブ活動その他あらゆるものにチャレンジしてほしい。失敗してもいい。失敗が許されるのは30歳までです。

私は医者になるまで各駅停車できました。長野高校を卒業して1年浪人して、教養課程をやつてまた1年浪人して、医学部を4年やって、また1年インターンやって、大学院は4年で卒業できなくて5年かかった。各駅停車でやってくると、それなりの楽しいことがあります。どうか、自分を大事にすると同じに人を大事にしてください。充実した思春期、青春期を送った者には素晴らしい人生が待っている。それが「生」、生きるということです。これで私の話を終わります。

考察

松本清一氏の「豊かなセキュアリティの育成と月経教育」によると、月経教育を受けた時の印象として否定的が42%、11才から16才では否定的が50%を越え、成熟期に至り次第に低下していくことを示している。月経があることと女性であることについては全年齢について女性性の積極的肯定のほうが女性性の否定的より上位であると述べている。

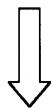
今回の調査では進学率の高い高校、短大で女性性をより積極的に評価しているが、これは女性をセクシュアルの面よりジェンダーとしての認識が高いのではないかと解釈される。そうしないと高学歴と非婚率との関係が説明しにくい。

性教育の場でも学校という集団においてそれぞれ異なった認識がみられるのでそれに応じた、内容、説得力をもたないと結果が期待できないことが明らかになった。

性教育がその後の人生にどのような効果を与えるかについては不明であるが、母性を年頭において上記性教育のあと感想をみると、女性がこどもを産んで母親になることを前向きの姿勢が感じられた。

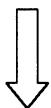
文献

- 1) 松本清一：豊かなスクシュアリティの育成と月経教育、産婦人科の世界、48(10)、915-923、1996
- 2) 松本清一：思春期保健学、同文書院、1982
- 3) 黒川義和編：青年期の性を考える、日本学校保健研究所
- 4) 脇田晴子編：母性を問う（歴史的変遷）、人文書院、1986
- 5) 石浜淳美：セクシュアリティ入門、メディカ出版、昭和63年
- 6) 日本性教育協会編：性教育新指導書、小学館、1990
- 7) 日本性教育協会：青少年の性行動（第1回-第4回）、1994
- 8) 日本母性保護医協会：日母性教育指導者セミナー集録（第12-14）
- 9) 深堀 輝：相談所における10代の性、第8回長野県性教育研究会集録集p22-25・、1985
- 10) 深堀 輝：相談所における10代の性、第1回関東甲信越静性教育研究会集録集p112-114・、1991
- 11) 深堀 輝：相談所における10代の性、第4回関東甲信越静性教育研究会集録集、1994
- 12) 小林竜一：多変量解析プログラム、金精社、1996



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約

母性・女性・月経の各々に 5 つの属性を与えてそれぞれの相互依存関係を検討した。対象は地域において異なる性格をもつ 3 つの高校、県立の女子短期大学、20 代から 30 代の母親クラブとした。全体として「母性」は肯定的安定的効果を持つか、月経は無条件に否定的ネガティブな傾向にある。それだけに母性の重視と共に月経の指導には明るく大切なものの肯定的受容的観点の指導が重要であるとの認識を得た。

こうした認識のもとに既に月経指導を終了した中学生、高校生に講演会形式で医師が「性教育」を行なった場合、生徒がいかなる反応をするか実例を呈示する。